

教育関連記事

エデュサン

edu sun

10

2025 / No.119



墨絵教室で日本の伝統芸術を体験したよ (Photo: ニューヨーク日本人学校)

1. 教育レポート

- ◆笑顔と拍手に包まれた一日 「スクールフェスティバル 2025 を開催」 NY 日本人学校
- ◆すし体験コーナーに長蛇の列、400 人超が来場 NY 育英学園
- ◆「アメリカ自然史博物館 & セントラルパークで秋の遠足」
NY 育英サタデースクール・マンハッタン校幼児部
- ◆スーパーマーケットで工夫を発見 「3年生社会科移動教室」 NY 日本人学校
- ◆芸術と出会い文化を感じる秋 「MET 美術館で秋の遠足」
NY 育英学園サタデースクール・マンハッタン校
- ◆「Trick or treat!!」かわいいおばけが大集合 NY 育英インターナショナルスクール

2. NY 教育関連ニュース

- ◆ NY でホームレスの子どもが約 15 万人に… 「世界都市」の知られざる現実
- ◆「自分の想いをもっと表現することが重要」
4人のよこはま子どもピースメッセンジャー、NY 訪問で夢を語る
- ◆アメリカ生活で「日本人の子どもにオススメの習い事」7選 | 武道編
- ◆子育て世帯に理想的な “NJ の住宅街 ” 10 選、大切なのは「教育の質」と「NY へのアクセス」
- ◆【保存版】アメリカの学校で役立つ！日本人保護者のための「保護者面談」ガイド（質問＆マナー集）



エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

笑顔と拍手に包まれた一日 「スクールフェスティバル 2025 を開催」

NY 日本人学校

2025.10.11

ニューヨーク日本人学校(コネティカット州グリニッヂ、森本恵作校長)は10月11日、2025年度スクールフェスティバルを開催した。今年のスローガンは「舞台の上で堂々と！～Let's have fun～」。笑顔と感動があふれる一日となった。開会式には、保護者や来賓も多数来場し、生徒会長の力強い挨拶と校長の温かいメッセージから始まった。

1、2年生は古典落語「寿限無」を題材に、名前に込められた思いや願いを明るくユーモラスに表現。観客も一緒に声を出す場面があり、笑いに包まれた発表となった。

3、4年生はミュージカル「The GJS Lion King～正義と勇気の物語」を上演。「ハクナ・マタタ（なんとかなるさ）」を合言葉に、勇気と友情を伝えた。

5、6年生は「つなげ！50周年の白熱ビブリオバトル！」と題して、自分たちのおすすめの本を紹介し合い、観客の投票でチャンプ本を決定。読書への思いが光る発表となった。

7、8年生は修学旅行で学んだアメリカ独立の歴史を題材にした劇、「アメリカの独立～自由のために立ち上がり(The Rise of America)」を上演。台本から照明まで自分たちで作り上げ、迫力あるステージで観客を魅了した。

9年生は「教科書は全てデジタル化すべきか」をテーマに、肯定側と否定側に分かれて熱い議論を展開。論理的思考と表現力が試される真剣勝負となった。

音楽発表では、初等部が合唱「ともだち讃歌」を披露した。上級生がリコーダーを奏で、下級生がダンスで参加する姿に、学年を越えた温かい雰囲気が感じられた。中等部は合唱「空は今」と合奏「Sing Sing Sing」を披露。平和と希望を込めた歌声、迫力あるジャズのリズムで、フィナーレを華やかに飾った。

また、校舎内には英語科のスピーチ作文や家庭科で作成したポーチなど、子どもたちの学習の軌跡を感じられる作品を展示。色とりどりの展示物がスクールフェスティバルの雰囲気をより一層華やかに彩り、学びと表現の広がりを感じさせていた。

閉会式では、児童会委員長が挨拶をし、森本校長が「どの学年もスローガンの通り、堂々とした発表で感動を与えてくれました」と講評した。児童・生徒全員が自信と誇りを胸に、最後までやり切った表情を見せていた。(情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校)



落語劇「寿限無」を披露する 1、2 年生



3、4 年生による劇「The GJS Lion King
～正義と勇気の物語」

すし体験コーナーに長蛇の列、400人超が来場

NY 育英学園

2025.10.12

ニューヨーク育英学園は10月12日、毎年恒例のバザーを開催した。今年は古本や古着の販売といった従来方式から、日系レストランや食品関連企業が出店する「フードフェスティバル型バザー」として新たな試みで実施した。

当日はあいにくの曇り空だったが、開始直後から来場者が列を作り、最終的に400人以上が訪れる盛況となった。会場には大型テントを2張設置し、周囲には11店舗が並んだ。

中でも来場者の注目を集めたのが、プロのすし職人のサポートによる「手巻きずし作り体験コーナー」。子どもたちが作った手巻きずしをお父さんやお母さんにプレゼントするとのコンセプトで、イベント終了まで行列が絶えなかった。

「初めて巻きずしを作ったけれど、うまくできた」「うまく巻けたけど、お父さんとお母さん、喜んでくれるかな」と、子どもたちは家庭での手巻きずしとはひと味違う特別な体験に、笑顔で取り組んでいた。

その他にも、パティシエによるスイーツや料理研究家の惣菜・和菓子、弁当、鮮魚・海産物の販売などさまざまな店が並び、来場者を楽しませた。

学園の職員は「食を通じて地域とつながる新しいバザーの形が好評だった。今後もこうした取り組みを続けていきたい」と、次回開催への意気込みを語った。(情報・写真提供:ニューヨーク育英学園)



大盛況だったバザー



お父さん、お母さん喜ぶかな？



行列で「売り切れ御免」の店も



大人気のパリジェンヌのパン。どれにしようかな？

「アメリカ自然史博物館&セントラルパークで秋の遠足」

NY 育英サタデースクール・マンハッタン校幼児部

2025.10.18

ニューヨーク育英サタデースクール・マンハッタン校の幼児部は 10 月 18 日、秋の遠足でアメリカ自然史博物館とセントラルパークを訪れた。年長クラス合わせて 19 人が参加した。

子どもたちはスクールバスの車窓越しに「秋のオレンジや黄色探し」を楽しみながらミュージアムに到着。まずは海洋生物ゾーンへ。地球上で最大の生物であるシロナガスクジラの模型が子どもたちを迎えた。「大きい～」「食べられちゃいそう！」と、その大きさに圧倒されながら、ゾウアザラシ、イルカ、カニやヒトデの展示へと進む。教室で折り紙で海の世界を作ったり、大型絵本「100 かいだてのうみのいえ」を読んだりしていた子どもたちは、本物の広い海の世界に心踊らせていました。

続いて恐竜ゾーンへ。展示室に収まりきらないほど首の長いブラキオザウルスを見上げたり、大きな体を支えるための太くて頑丈なトリケラトプスの前足の骨を触ったりしながら、巨大恐竜たちが生きていた時代に想いを巡らせた。

見学後はセントラルパークまで散歩し、柔らかな秋の日差しが降り注ぐ中でお弁当を広げた。食後は広大な芝生の上で走り回ったり、落ち葉やどんぐり拾って「たくさんの秋」を見つけた。(情報・写真提供：ニューヨーク育英学園サタデースクール・マンハッタン校幼児部)



シロナガスクジラって大きいね



おひさまのシャワーを浴びながらのピクニック



恐竜が今も生きてたらいいな

スーパーマーケットで工夫を発見「3年生社会科移動教室」

NY 日本人学校

2025.10.21

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッヂ、森本恵作校長）の3年生10人が10月21日、スーパーマーケット、スチュー・レナーズ本店を見学した。社会科移動教室の一環。

子どもたちはこの日の見学に向けて、スーパーマーケットの工夫や店で働く人の思いについて考える学習を進めてきた。

当日は、スタッフに店内を案内してもらいながら、店の歴史や商品についての説明を聞いた。また、牛乳を紙パック詰めにする機械を間近に見て、商品が店内で製造されていく過程を知ることができた。音楽や動く人形など、来店者をわくわくさせる仕掛けが随所にあり、楽しみながら買い物ができる同店の特徴を学んだ。子どもたちは、見学を通して見たことや聞いたことなどを学習のしおりに、熱心に記録していた。

見学後は「店で働いている人は、みんな笑顔だったね」「また行きたくなった」などの感想が聞かれた。学びの多い社会科移動教室となった。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



入口に設置された創業者、スチュー・レナード・シニアの彫像を囲む子どもたち



バナナ売り場には躍る人形が



牛乳を紙パックに詰める工程を見学する子どもたち



スタッフに質問すると、丁寧に答えてくれた

芸術と出会い文化を感じる秋「MET 美術館で秋の遠足」

NY 育英学園サタデースクール・マンハッタン校

2025.10.25

ニューヨーク育英学園サタデースクール・マンハッタン校・中学部は10月25日、メトロポリタン美術館で秋の遠足を行った。世界的な美術館で芸術と文化を身近に感じる貴重な機会となった。

この日は学年ごとに分かれて見学したが、全学年共通してアジア美術の展示室を訪れ、日本や東アジアの美術品を通して、自らの文化的なルーツを改めて見つめ直した。また、展示品の背景や歴史について、社会科の教師と質疑応答を行い、教室での学びと見学が結び付く有意義な体験となった。

ステンドグラスの色彩の美しさや、翡翠の食器の繊細な色合い、武器や甲冑の重厚な造形など、一つ一つの作品が生徒たちの感性を刺激。昼食は光あふれるカフェテリアで楽しんだ。

多様な文化が交わるニューヨークで、日本語を学びながら世界を学ぶ子どもたちにとって、今回の遠足は「文化をつなぐ学び」の実践の場となった。(情報・写真提供：ニューヨーク育英学園サタデースクール・マンハッタン校)



ステンドグラスに負けないぐらい、みんないい顔



東アジア美術の展示室を見学する生徒たち

「Trick or treat!!」かわいいおばけが大集合

NY 育英インターナショナルスクール

2025.10.31

ニューヨーク育英インターナショナルスクールは毎週金曜に実施している「一日英語の日」に合わせて10月31日、英語で交流する恒例のハロウィンパーティーを開催した。

魔女やカボチャ、アメコミのスーパーヒーロー、プリンセスなど、子どもたちが大好きな仮装で登校し、朝から園内は、カラフルなコスチュームで大にぎわいとなった。

幼児部では、ESLの先生からハロウィンの歴史についての話を聞き、世界の文化や行事について学び、授業で練習した「Halloween Stomp」のダンスを全員で踊った後、クラスごとにファッショショーンショーを開催した。

子どもたちは舞台の上で自分のコスチュームを披露し、「I am a witch!」「I'm a pumpkin!」などと元気に自己紹介。観客席からは大きな拍手と歓声が上がり、子どもたちは照れながらも誇らしげな笑顔を見せていました。

ファッショショーンショー終了後は小学部の教室を訪れての「Trick or Treat!」タイム。お兄さん・お姉さんたちから出されたハロウィンクイズに挑戦し、正解した子どもはお菓子をゲット。笑顔あふれるひとときとなった。

小学部では、幼児部同様ファッショショーンショーや学年を超えて交流する英語ゲーム大会を実施。英語の指示を聞いて動くアクティビティーを通じて、楽しみながら自然に英語に触れた。小学部の子どもが幼児部の子どもに簡単な英語のクイズを出すなど、教え合い・学び合いの姿勢が育まれる時間となった。

異年齢の子どもたちが一緒に活動することで、思いやりや憧れの気持ちが自然に育まれ、楽しいだけでなく心温まる行事となった。(情報・写真提供: ニューヨーク育英インターナショナルスクール)



廊下も教室内もハロウィン気分でいっぱい



ハロウィンの歴史を学ぶ子どもたち



工夫を凝らした仮装で、「はい、チーズ！」



エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS



ホームレスの子どもたちが成人してホームレスになる「悪循環」を断ち切るには抜本的な解決策が必要だ。写真はイメージ (photo: Unsplash / Ben Wicks)

NYでホームレスの子どもが約15万人に… 「世界都市」の知られざる現実

2025.10.07

アメリカ国内には現在、シェルターに住んだり、車で寝泊まりしたりするなど適切な住環境がない、いわゆるホームレスの児童・生徒が130万人存在する。ただし、この数字は大幅に少なく見積もられているというのが大方の見方だ。2023～24学年度、ニューヨーク市では前年度比23%増の14万人6000人と過去最高を記録。これは公立校の児童・生徒の15%を占める。3日付のニューヨータイムズが、ホームレス児童に関する市の実態を伝えた。

ニューヨーク市では2018年、130校で少なくとも4人に1人がホームレスだったが過去5年で330校に増加。トランプ政権がさまざまなソーシャルサービスを削減する中、専門家らは今後数年間で恒久的な住まいを持たない子どもがさらに増えるのではないかと危機感を強めている。

シェルター住まいの子どもの75%は読解力が不足

ラトヤ・イヘアナチョさんは昨年、息子と娘2人の5人でブロンクスとクイーンズのシェルターを転々とする暮らしをしていた。起床は朝4時。バスと地下鉄を乗り継いで学校まで2時間だ。医療関係の仕事も辞めざるを得なかった。ネズミが出る部戻るのは夕暮れ時。ストレスのせいで娘の思春期が早まった。子どもの学習は遅れた。「疲れと飢えで勉強するエネルギーはない。生きていくのが精一杯」とイヘアナチョさんは話す。

背景にあるのは手頃な住宅不足、家賃の上昇、新型コロナウイルスのパンデミックに伴う立ち退き禁止措置終了、不法移民の大量流入だ。シェルターも不足気味で、ホームレスの親子は転校に直面する例が少なくない。転校を繰り返すと学力が最大6カ月遅れるという。イヘアナチョさんが子どもたちを近くの学校に転校させないのもそのためだ。スクールバスも慢性的に遅れ、遅刻をするとネグレクト（育児放棄）を疑われる。自分で連れて行くしかない。[続きを読む](#)



「よこはま子どもピースメッセンジャー」の4人（左から）篠浦智香さん（中学3年）、大丸優衣さん（小学6年）、小林空神さん（同5年）、リム・ケイクンさん（中学3年）

「自分の想いをもっと表現することが重要」 4人のよこはま子どもピースメッセンジャー、NY訪問で夢を語る

2025.10.13

国際平和とグローバル人材育成を目的に、1986年に始まった「よこはま子ども国際平和プログラム」。毎年約4万人の横浜市内の小・中学生が、「国際平和のために、自分にできること」について主張する「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」に参加している。

4万人の中から市長賞に選ばれた4人が、「よこはま子どもピースメッセンジャー」として、今年も10月13日から17日の1週間、ニューヨーク・マンハッタンを訪問、国連本部や国連国際学校（UNIS）などを訪れた。そんな4人に最終日の17日、今回のニューヨーク訪問で感じたことや将来の夢を聞いた。

篠浦智香さん 国連訪問では、たくさんの国の人々が働いていることを知り、多様性を実感しました。また、お互いが理解し合うことの重要性を感じました。中満泉さん（国連事務次長、軍縮担当上級代表）の言葉「対話がなければ何もない」に強い刺激を受けました。将来は中満さんになりたいです。

大丸優衣さん（長崎県出身） 平和を伝えていくことの重要性を改めて感じました。今回の経験を通じて、さまざまな争いや、もめ事をきちんと解決できるような裁判官になりたいと思いました。

小林空神さん 話すことの重要性、ちゃんと伝え合おうとすることの重要性、いじめなどにもちゃんと声を上げることの重要性を学びました。脳の病気を患う子どもたちと接し、その大変さを目の当たりにしました。将来は脳外科医になって病気を治療したいです。

リム ケイクンさん（カンボジア人の両親の下、日本で生まれ育つ） 今回の国連訪問を通じて、相手の立場で考えることの大切さを学びました。また、コミュニケーションの重要性を改めて感じ、日本に来て、言葉で苦労した母親の気持ちがよく分かりました。将来は、言葉の壁を取り除き、人と人をつなげる通訳になります。続きはウェブへ



写真はイメージ (photo:Pexels/ cottonbro studio)

アメリカ生活で「日本人の子どもにオススメの 習い事」7選 | 武道編

2025.10.13

多くの親が直面する課題は、単に武道プログラムを探すことではなく、子どもの性格、身体能力、発達段階に合った正しい武道を見つけることだ。

武道は単なる護身術にとどまらず、身体的・精神的成长、社会性の発達、自信を育む力がある。以下は総合的に武道を追求する、MMA (Mixed Martial Arts (総合格闘技)) 愛好家のジョン・ウェス・グリーン氏お勧めの、子どもに特に効果的な7つの武道だ。

- 1) ブラジリアン柔術 (BJJ) – 力より技術と戦略を重視。問題解決能力や体の使い方を学べる。
- 2) テコンドー – ダイナミックな蹴り技、規律と礼儀を重視。達成感と集中力を育む。
- 3) 空手 – 集中力、自制心、自信を養う。型による精神的な成長。
- 4) 合気道 – 非攻撃的な武道。相手と調和して衝突を解決する方法を学ぶ。
- 5) ムエタイ – 体力、技術、尊敬の心を育む。子ども向けて安全な指導が可能。
- 6) 柔道 – 受け身と投げ技を通じて安全と協調性を学ぶ。オリンピック種目としても人気。
- 7) レスリング – 強さ、バランス、自立心を鍛える。同時にチームワークも学べる。

親へのアドバイス

- ・ 基本的な運動能力から始めること
- ・ 子ども自身に選ばせること
- ・ 安全性と年齢に合った練習を重視すること
- ・ 武道の種類よりも指導者と環境が大切
- ・ 親も関心を持つことで子どもの意欲が高まる

[続きを読む](#)



リッジウッドではアジア系住民が人口の 15% 以上を占める。公立図書館では ESL のクラスも開催されており、質・内容共に、評価が高い (photo: Miki Takeda)

子育て世帯に理想的な “NJ の住宅街 ” 10 選 大切なのは「教育の質」と「NYへのアクセス」 2025.10.21

ニューヨーク市から郊外への移住を検討する子育て家族にとって、「教育の質」と「通勤の利便性」は重要な要素だ。ニュージャージー州北部は、市から 1 時間圏内にありながら、全米トップクラスの公立学校を数多く擁し、子育て世帯には理想的だ。移住情報サイト、シティー・トゥ・サバーブ (Cities to Suburbs) が、ニュージャージー州北部にある代表的な 10 の住宅街の教育環境を比較し、それぞれの特徴をまとめている。

1. サミット (Summit) ニュージャージートランジット直通・ニューヨーク市まで約 35 ~ 40 分

全学年を通して高い学力で知られ、特に高校の高度なカリキュラムと大学進学準備教育に優れる。難関大学を目指す家庭に最適。

2. リッジウッド (Ridgewood) 乗換 1 回・約 50 ~ 55 分

小～高校まで高い教育水準を維持。スポーツや芸術など課外活動も充実。幅広い年齢層の子どもがいる家庭向き。

3. モンクレア (Montclair) 直通・約 35 ~ 45 分

マグネットスクール制度により、科学・技術・工学・数学、理系 (STEM) から芸術系まで、生徒の興味に応じた学習が可能。多様性と文化的な活気を重視する家庭には魅力的。

4. ウエストフィールド (Westfield) 直通・約 45 分

教育水準が高く、歩きやすく親しみやすい街並みが特徴。学問と課外活動のバランスを重視する家庭におすすめ。

5. テナフライ (Tenafly) バス・約 35 ~ 40 分

高校の学力水準が特に高く、大学進学準備教育に定評がある。教育最優先の家庭で、バス通勤に抵抗がない層に最適。[続きを読むウェブへ](#)



写真はイメージ (photo: Unsplash / Amy Hirschi)

【保存版】アメリカの学校で役立つ！日本人保護者のための「保護者面談」ガイド（質問＆マナー集） 2025.10.31

保護者面談（Parent-Teacher Conference）は、教師と保護者が協力して子どもの学びと成長をサポートする大切な時間だ。限られた時間的有效な使い方のために、あらかじめ質問を考えておくとよいだろう。ここでは、アメリカの学校で実際によく聞かれる質問と、教師との信頼関係を築く一助となる質問を紹介する。

アメリカの学校での保護者面談（Parent-Teacher Conference）の時期

1) 秋～新学年度開始後の教師と保護者の顔合わせ

アメリカの多くの学校（東部）では、9月の新学年度開始から1～2ヶ月後に最初の保護者面談が実施される。
目的：新学年度が始まり、教師が子どもの学習態度や性格、クラスでの様子を把握し始めるタイミングで保護者と情報を共有するのが目的。学期初めの成績や学習態度、友人関係やクラスへの適応、学習上の課題や支援の必要性が主なテーマとなる。

時期：10月下旬～11月初旬（「Fall Conference」と呼ばれる）。一部の学校では10月中旬に「Parent-Teacher Week」を設けて集中的に実施する場合もある。

2) 春～学年進捗の確認と次年度の準備

学年の後半にも、もう一度面談を実施する学校が多い。

目的：学年末に向けて学習の進み具合を確認し、次の学年への準備や改善点を話し合う。この時期には、これまでの成果や伸びた部分、今後の課題、サポートの提案、夏休み中の学習や進学準備などがテーマとなる。

時期：2月下旬～3月頃（「Spring Conference」と呼ばれる。春休み前）

3) 必要に応じて（随時）

子どもが学習面や行動面で課題を抱えている場合、教師やカウンセラーが、保護者に個別面談を提案することもある。保護者からリクエストも可能。[続きを読むウェブへ](#)



Product of Japan

ゼリー飲料で エネルギー充電!



お買い求めはお近くの日系マーケット、またはオンラインストアにて



CHARGELEX.COM



AMAZON.COM

supported by



edu sun